

6年間の収穫(?)

札幌医科大学附属病院 初期研修医

たなか ゆずき
田中 柚妃

初めまして。札幌医科大学附属病院研修医1年目の田中柚妃と申します。今回はポリクリ班が一緒だった梶野公平先生から本企画のご紹介をいただきました。先生は班のムードメーカーで、いつでも皆に声をかけ、場を盛り上げてくれました。その気配りのおかげで、講座の秘書さんに班の雰囲気の良いを褒めていただいたこともありましたね。学外ではリアル脱出ゲーム仲間でもあります(?)。執筆の機会をいただきありがとうございます。

学生時代はダンス部に所属していました。“ジャズダンス”というクラシックバレエをベースにしたジャンルで、脚を頭より高く上げること、背中を限りなく反らせることに心を砕いておりました。また部活以外にも他大学との合同発表会に参加して、あげくの果てには練習をハシゴしたり、個人的にスタジオに通い始めたりと、踊りに踊った6年間でした。

しかし私には陰ながらダンスと同じくらい夢中になっていたことがあります。それは資格や検定を取得することです。元はと言えば高校生の時に、英検や数検を受験したことがきっかけでした。また“東大王”というクイズ番組が好きで、漢字の問題が分からないのが悔しく、漢検準一級の勉強も始めました。

大学では大きなテストが年2回と少なく、直前の勉強だけでは頭がサビつきそうでした。検定のために日頃から机に向かうと、医学に関係ない内容でも“勉強体力”が付き、いざというときも集中力を発揮できました。実は講義中も資格勉強をしていたのですが、有難いことに、話を熱心に聴きメモを取っている真面目な学生だと誤解されることが多々ありました(先生すみません)。

そんな中、私のやる気に火をつける「事件」が起こります。3年生の秋に日本語検定を受けたところ、文部科学大臣賞受賞のお知らせとともに大きな賞状と金色に輝く盾が届いたのです。成績上位者には“付録”がつくことを初めて知りました。そこで気持ちが一気に弾み、資格を受けること自体が趣味になっていきます。綿密にスケジュールを組んで手当たり次第に受検し、おしゃれな会員証やバッジなど色々なものをもらいました。アマチュア無線技士試験を受けたときは、会場に女性がほとんどおらず、かなり浮いていましたが…。

第二の事件は5年生の秋のことです。チョコレ



札幌出身。札幌南高校を経て札幌医科大学へ。北大のかるた会に入っていた時期があり、3年時の北大祭では浴衣を着て油そばを売ったり、junctionのダンス発表に出たりと他大生とは思えないくらい楽しみました。

ト検定なるものの存在を知り、CBTで受けられるからと気軽に受検しました。ラッキーなことに満点を取ってしまい、副賞は、なんとチョコレート1年分!!

M製菓の板チョコ360枚が段ボール3箱にギッシリ入っていました。あのときの宅配便のお兄さんが腰椎椎間板ヘルニアになっていませんように…。

受検回数を重ねるごとに勉強の効率も上がっていき、5、6年生の頃には苦手意識のあった分野にも挑戦できるようになりました。6年間でとった資格は延べ24個。ガソリンスタンド等で使う“危険物取扱者乙種”、飲食店を開く際に必要な“食品衛生責任者”、文字通り秘書を目指す“秘書検定”等々…「それ何の役に立つの?」と耳にたこができるくらい聞かれました。自分でもよく分からなかったのですが、今こうしてエッセイのネタにできたので自信を持とうと思います。

そんな学生時代でしたが、4月からは初期研修が始まりました。最初の2か月は血液内科を、そしてこれを書いている現在は脳神経内科をローテートしております。最初は試行錯誤すらできませんでしたが、まわりの先生方に勉強の仕方なども丁寧にご指導いただいたおかげで、いまでは日々やりたいことがあふれています。そのため検定生活はいったんお休み。でも、次に狙っているのは“日本ビール検定”です。最高点なら、副賞はビール1年分なんですよ!



チョコ1年分